

# 人文研紀要

## 第110号～第112号（2025年）

### ◆第110号—2025年(2025年9月発行 A5版392頁)

オペラを省略／救出する ——ペーター・コンヴィチュニー演出『影のない女』（東京二期会、2024年）——	新田 孝行
古屋岩陰の再検討	遠部 慎
長崎県内遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定研究 ——縄紋時代前期を中心に——	小林 謙一
英語の動詞句省略における学習者の課題 ——母語と習熟度が与える影響——	小山 さや香
シミュレーション仮説から『マトリックス』を再考する	青木 滋之
生命と存在 ——井筒俊彦における「生命」の哲学——	小嶋 洋介
アンダースとガタリにおける個体化と分割可能なもの	田口 卓臣
モートンの環境哲学（3）	竹中 真也
トマス・ハーディの短編小説‘The Three Strangers’ ——羊飼いフェネルが語る‘Walk in!’の意味——	柴田 聡子
ラドヤード・キプリング「ミセス・バサースト」におけるセンチメンタリズム	丹治 竜郎
「唇のねじれた男」における冒険と家庭	中和 彩子
『ノストローモ』の舞台	野呂 正
メルヴィルの『レッドバーン』と「野蛮なアイルランド人」という句をめぐって（III）	福士 久夫
内発的に動機づけられた学びと自己決定	二宮 理佳
国際寮における非対称性と共生の課題 ——留学生の葛藤に着目して——	吉田 千春

◆第111号—2025年(2025年9月発行 A5版400頁)

中上級中国語授業における「文法」「リスニング」連携の試み ——2023年秋学期早稲田大学国際教養学部開講科目 「Intensive Chinese II」を例として——	泉 杏奈
高行健『逃亡』に描かれた六四・天安門事件の残像 ——戯曲のテキスト分析を中心に——	及川 淳子
中華人民共和国重慶市及び四川省における方言番組をめぐる政策について (3・完)	小田 格
伝統文化における日本絵画の美 ——唐絵から茶掛の水墨画を中心に——	彭 浩
魯迅の文体と写真的感性(6) ——解剖学的まなざしとX線的まなざし(II)——	山本 明
1940年代重慶「大後方」の知識人とその音楽活動 ——歴史劇『屈原』を中心に——	熊 楚月
ベルリン反ユダヤ主義論争の前史 ——「ベルリン反ユダヤ主義論争」5——	平山 令二
植民地戦争としての義和団戦争を検証する ——軍事史の観点から——	鬼川 良一
スタロバンスキーのセネステジ (3)	金澤 忠信
アイルランド民話における妖精と死者との関係性	高木 朝子
ウェールズの『ペレディル物語』におけるヒーローの沈黙が語るもの	森野 聡子
今日の台湾独立運動論	齋藤 道彦
イサーイヤ著『簡明中国語文法』と『露中辞典』増訂版序の関係について	萩原 亮
隣人か同胞か ——戦後サンフランシスコ湾区の日系人と華人	深町 英夫

◆第112号—2025年(2025年9月発行 A5版442頁)

Examining the Kotobee Platform for Digital Publishing	WOOLLERTON, Maxim
Robert Musil in Stuttgart (2)	HAYASAKA, Nanao
Beyond the Luxury of Denial: Historical Trauma and Narrative Ethics in Teju Cole and Julie Otsuka	WAKE, Issei
The Development of Japanese-Speaking Learners' Knowledge of English Passives	HOKARI, Tomohiro
The <i>Life of Stephen</i> as a Medium between Obazine Abbey and Regional Society	KITADATE, Yoshifumi
上杉定勝筆『見聞書』の紹介と検討(三) ——軍記物語を中心に——	池野 理
「南葵文庫」蔵書印をもつ『台記』保延二年記の諸写本	白根 靖大
続・流布本『承久記』諸本についての考察 ——東京大学附属総合図書館所蔵本を中心に——	鈴木 楓実
安政コレラ下の都市社会秩序 ——江戸新材木町梶森稻荷を事例として——	渡辺 浩一
中世武蔵国西党の由緒とネットワーク	西川 広平
フランツ・ローゼンツヴァイク『救済の星』第二巻の解釈 ——創造と啓示——	村岡 晋一
夏目漱石『こころ』の受容から見る一九八〇年代の中国事情	苗 鳳科
松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』と修復的なねじれ	黒岩 裕市
ツェランと精神病(一)	北 彰